Osaka University Knowledge Archive

Title	無効費用の理論
Author(s)	宮本, 匡章
Citation	大阪大学, 1969, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/29902
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【1】

氏名・(本籍)	宮本匡章（みやもとまさあき）
学位の種類	経済学博士
学位記番号	第 1588 号
学位授与の日付	昭和44年3月1日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**無効費用の理論**
論文審査委員	(主査) 教授 高田 馨
	(副査) 教授 木内 佳市 教授 大澤 豊

論文内容の要旨

本論文は≪無効費用（Leerkosten）の理論≫を取扱ったものである。

ここで解明しようとする無効費用概念は，原価会計において古くから用いられてきたアイドル・コスト（idle cost）概念（これは，不働費用，遊休費用，空費，死費などとよばれ，その端緒は今世紀初頭に見出せる）を，その一部として包含する，極めて広義の概念であり，企業のあらゆる活動領域において発生するいわゆる無駄部分を網羅的に把握しようとするものである。

そこでまず第Ⅰ編を「無効費用論の基礎」と名付け，第1章「序論—無効費用概念とその意義」において，無効費用の概念とは何か，無効費用概念が経営諸問題に対していかなる意義をもつのかを論じ，第2章「無効費用の発生原因とその分類」では，いかなる原因によって無効費用が発生するかを体系的に取扱っている。

第Ⅱ編(無効費用論の展開)では，無効費用概念がどのような思考を基盤として発生してきたかを論じ，そのうち，無効費用に類する概念およびその理論が今日までどのような発展経過をたどってきたかを解明しようとしている。まず第3章「無効費用の発展過程」において第Ⅱ編の概括的説明を行なったのち，第4章では，「無効費用概念の萌芽形態」とみなされる論者を取扱い，固定費概念と無効費用概念との関連を解明している。第5章では「米英におけるアイドル・コスト論の生成」を論じ，続く第6章「無効費用論の生成」と第7章「無効費用論の確立とその発展」とにおいて，ドイツにおける無効費用論の発展過程を詳細に取扱うとともに，今後の発展方向を示している。しかし，私見によれば，グーテンベルク（Gutenberg, E.）理論において初めて無効費用論が確立したとみることができるので，無効費用論の本格的な発展は，今後の課題であるといわねばならない。

第Ⅲ編（無効費用の測定と管理）は，われわれの規定した無効費用概念を，具体的に利用するための試論である。とはいえ，極めて広義の概念規定を採用しているため，無効費用のすべてを実際に測

定し管理することは不可能であった。そこで，まず第8章「無効費用概念と固定費管理」において，ここでの研究対象を固定費に限定することを述べるとともに，固定費概念を検討するため第9章で「キャパシティ・コスト論」を展開した。そののち，固定費の無効費用を測定しようとしていた従来の方法を，第10章「無効費用の近似的測定法（Ⅰ）—操業度差異の内容と，その意義」で取扱い，続く第11章「無効費用の近似的測定法（Ⅱ）—ヘンツェルの直接原価計算方式による測定法」では，非常に概括的な方法ではあるが，しかし容易に利用可能な無効費用の測定法を紹介している。そして最後の第12章「無効費用の測定と分析」において，われわれの考案した方法を論述している。

論文の審査結果の要旨

本論文は，経営費用論における基本概念の一つである。無効費用（Leerkosteen, idle cost）について，同概念の発展の系譜を精細に追跡・分析したあと，無効費用の発生原因，種類，測定方法などにつき筆者独自の見解を呈示している。これによって，無効費用概念が経営費用論上に占める地位と問題点を明らかにするとともに，経営費用論に新しい知見を加えた。

よって，本論文は経済学博士の学位に十分値するものと認める。